

報道関係者各位

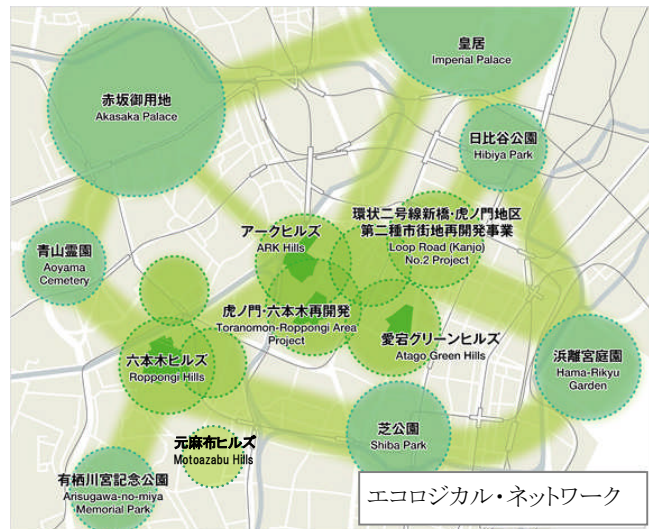
2011 年 12 月 15 日

森ビル株式会社

東京都内の民間施設として初めての登録 都市と自然が共生する 4 つのヒルズを「バードピア」に ～企業、個人が一体となって緑地の点と点をつなぎ、都心に緑の回廊を創出する～

森ビル株式会社は、当社が管理運営する 4 つのヒルズ(六本木ヒルズ、アークヒルズ、愛宕グリーンヒルズ、元麻布ヒルズ)を、日本鳥類保護連盟主催「バードピア」に登録いたしました。東京都内の民間施設として初めての「バードピア」登録となります。

森ビルは、「Vertical Garden City(立体緑園都市)」のコンセプトのもと、開発を通じて生まれたオープンスペースや建物の屋上を積極的に緑化し、量はもちろん生物多様性等にも配慮した質の高い緑豊かな街の実現を目指しています。当社のこれら取り組みをさらに推進するにあたり、「バードピア」の活動趣旨に賛同し、この度の登録に至りました。



※バードピアとは (www.jspb.org/birdpia/birdpia.html)

バード(野鳥)とユートピア(楽園)を組み合わせた造語で、主として都市域など人の生活、生産などの活動に供されている様々な場所を、その本来の目的に支障のない範囲で有効活用し、配慮、工夫しながら鳥たちが棲みよい環境をつくり管理していく場所を指します。2011 年 1 月、日本鳥類保護連盟(総裁 常陸宮正仁親王)が、日本全国に登録箇所を広める活動を始め、12 月 1 日時点で、一般、民間あわせ計 140 箇所が登録されています。

当社は今後も、プロジェクトを推進しながら緑を増やす街づくりを進め、新たに生まれた緑地と皇居などの既存緑地を緑でつなぐ「エコロジカル・ネットワーク」を創出し、東京が鳥などの生き物にとっても住みやすい環境を作ってまいります。

【本件に関するお問い合わせ先】

森ビル株式会社 広報室 田澤

TEL:03-6406-6606

FAX:03-6406-9306

mail:koho@mori.co.jp

■「バードピア」に登録した4つのヒルズ

六本木ヒルズ: 都会にしながら豊かな緑に包まれる

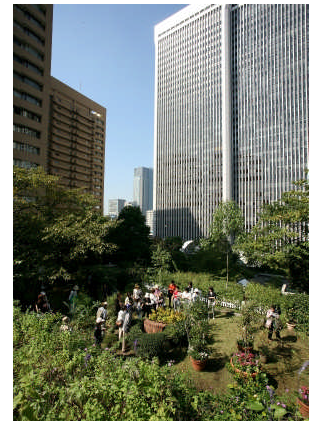
(東京都港区・2003年竣工)

再開発によって生まれた空間を庭園や広場、散策路などのオープンスペースとして有効活用するほか、建物の屋上を積極的に緑化しました。水田を設けた「けやき坂コンプレックス」の屋上庭園は日本の農の風景を創出。旧毛利藩の屋敷の庭をもとにした毛利庭園は、約4,300㎡の日本庭園として人々の目を四季折々楽しませています。六本木という都市の中心部にありながら、毛利庭園を中心に豊かで質の高い「みどり」を保全しています。緑地を利用したワークショップや見学会なども実施し、イベントを通じて一般の皆さまに緑地空間の大切さを知ってもらい取り組みを行っています。



アークヒルズ: 屋上緑化の先駆け(東京都港区・1986年竣工)

民間初の大規模再開発として誕生し今年25周年を迎えたアークヒルズは、職住近接、都市と自然の共生、文化の発信を具現化しました。「都市に自然を取り戻す」ことを主テーマに掲げ、大規模な屋上緑化や並木の整備を行っています。緑の量だけでなく植種など質にも配慮し、植栽計画の見直しや季節の草花を植えることを随時行っています。起伏に飛んだ地形に沿って散策できる並木道や通り抜けできる通路も整備。誰でも四季の緑や小鳥・虫の鳴き声を楽しみながら、敷地内を散策することができます。



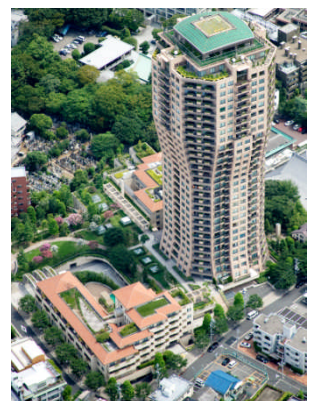
愛宕グリーンヒルズ: 愛宕山周辺の自然・歴史と調和(東京都港区・2001年竣工)

愛宕山の豊かな自然と、オフィス・住宅の2つの高層タワー、3つの寺院などの建築物が融合するプロジェクト。皇居、日比谷公園から続く緑の軸を、愛宕山を介して芝公園へつなぐことを視野に入れ設計し、既存の斜面緑地の地形や植生を維持するよう計画しました。また、愛宕山の植生を保存すべく、実生していた樹木から苗を採取し圃場で苗木に育成し、敷地内に戻す試みも行いました。周辺地域の景観向上にも配慮し、前面を通る都道に植樹した街路樹も当社で維持管理を続け、10年が経過した現在では大きく葉を繁らせ、夏季には歩道に木陰をつくるまでに成長しています。



元麻布ヒルズ: 森の都市(東京都港区・2002年竣工)

都市の中に森をつくるのではなく、都市そのものを森として捉えるという「森の都市」をコンセプトに誕生した住居施設。大きな樹木のようなフォレストタワー(高層棟)を中心に低層棟(2棟)を配し、敷地の約半分を緑に戻すとともに、建物の屋上やバルコニーも積極的に緑化。新規の樹木を植えただけでなく、従前の敷地内にあった樹木も多数保存・移植しています。外構空間は、一般の方も出入できる空間ではありつつも閑静な空間となっています。付近に有栖川公園などの緑地も多く、これらを結ぶ緑のネットワーク上のスポットのひとつとして、鳥類の生息に役立つ場となっています。



今後、登録を予定しているプロジェクト

虎ノ門・六本木地区第一種市街地再開発事業:

生物多様性の視点を導入、日本初 JHEP 認証 AAA 取得(東京都港区・2012 年 8 月竣工予定)

「緑の生活都心」をコンセプトに、居住機能と商業・業務機能等が高次に複合した国際性・文化性豊かな魅力ある街づくりを目指し、その柱の一つとして、生物多様性に配慮した外構設計を実施。地域の自然再生や「生き物環境」の向上を試みています。こうした取り組みの結果、生物多様性の保全や回復に資する取り組みを定量評価する認証である JHEP 認証において 09 年 11 月、日本初となる最高ランク(AAA)を取得いたしました。



当プロジェクトは、以下の点において生物多様性の保全や回復に貢献しています。

1. 在来種・潜在自然植生をベースとした緑地:計画地の地域植生を再生する
※主な在来種:スダジイ、タブノキ、アラカシ、エゴノキ、ヤマボウシ ほか
2. まとまりのある緑地:緑化効果を高め周囲と結ぶ
3. 緑被ボリュームの高い立体的な緑地:生きものの住みやすさに貢献する
4. 特殊な環境要素:枯れ木・樹洞・落ち葉といった環境要素への配慮

森ビルプロジェクトの緑被率

森ビルでは、主要施設の緑被率調査を行っています。緑被率とは、その敷地がどれだけの緑で覆われているかを示す数値で、地方自治体などが緑の量の変化を経年比較する場合などによく用いられています。当社の調査も行政資料に倣い、東京都が発行した「緑被率標準調査マニュアル」に基づき実施しています。 緑被率(%) = {(緑被地の面積) / (単位区域面積)} × 100

当社主要施設の緑被率(2011 年 8 月調査)

	竣工	敷地面積	緑被面積	緑被率
アークヒルズ	1986 年	4.96ha	2.26ha	45.61%
愛宕グリーンヒルズ	2001 年	3.85ha	1.90ha	49.34%
元麻布ヒルズ	2002 年	1.23ha	0.61ha	49.64%
六本木ヒルズ	2003 年	9.59ha	2.68ha	27.94%

(参考) 港区全域の緑被率(2006 年度)20.51%